

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム わがの里

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	039060062		
法人名	社会福祉法人 和江会		
事業所名	グループホーム わがの里		
所在地	〒024-0073 岩手県北上市下江釣子11-2-17		
自己評価作成日	令和3年1月14日	評価結果市町村受理日	令和5年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入所者の笑顔が毎日見られ安心して、生活出来るように見守りや声をかけながら支援しています。 ・家族のように側に寄り添い生活のお手伝いをしています。 ・家庭の時間に少しでも近づけるよう、入浴は15:30から始めています。 ・新型コロナなど外部からの感染症に罹患しないように、感染対策に万全を期するよう努力しております。 ・コロナ禍にあっても家族との絆を維持出来る様に、毎月の家族連絡表を発送するなど情報提供に努めております。 ・利用者のみみなさんの笑顔を引き出すことをモットーに毎日の日課を過ごしていただいております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームがある地区は長沼地区と江釣子地区にまたがっており、古い住民と新しい住民が混在している。コロナ禍前は地域住民が参加できる行事を開催していたが、ここ3年ほどは交流の機会が持てずにいる。事業所は利用者が在宅で生活していた日常に近い生活が送れるよう入浴時間を午後3時以降としたり、その時々利用者の状況等に依ってゆったりと過ごせるように配慮している。居室担当者が作成した利用者の暮らしぶりやケアの内容などの報告を家族に毎月送付し、安心感を得ている。また、預り金の出納状況の確認のため家族が来所する機会を利用して、家族から意見や要望を伺うなどし、事業所から一方的に偏らない双方向の関係づくりにも配慮している。同じ法人グループの特養や保育園などが付近に立地しており、防災や世代交流などに強みを有している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年1月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも笑顔で安心して暮らせる日々を目指して」 ・まごころこめて生活のお手伝いをします。 ・家族のようにいつもあなたのそばにいます。 を理念とし、努力しています。	開設当時の理念を最近見直す機会があったが、議論の結果、継続することとした。玄関などに掲示しているほか、毎月の職員会議や研修の機会に職員間で徹底に努めている。毎年行う面談の際にも、各職員に理念に基づく日々の対応を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域行事に参加。(本年度はほとんど中止) ・10月保育園ハロウィン訪問があった。 ・好天日散歩で園児を見に行った。 ・保育園のDVDメッセージをかけた。	コロナ禍で地域の行事は休止され参加できていないが、10月のハロウィンには法人グループの保育園の園児の訪問を受けたほか、園長からDVDのメッセージが届けられた。天気の良い日は園児の姿を見に保育園の庭に出かけるなど、身近な存在となっている。5月の開所記念日には近隣世帯に赤飯を配っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々のケアを実践をしながら、認知症への理解を深め、地域に発信出来るように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月ごとの会議を実施している。 ・今年度は書面にて開催している。 ・利用者の生活の様子を報告し、家族や委員の方達からも意見を頂いている。 ・写真を提示して近況を報告している。	令和3年度から書面会議の形で2カ月毎に開催している。内容は、利用者の日常生活の様子や介護度の状況、行事、コロナ対策などを資料で報告している。コロナ禍以前の運営推進会議では委員からの積極的な意見はあったが、書面となり意見が少なくなっている。なお、利用者や家族の成り手はなく欠員となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進委員に市担当職員に参加頂いている。	市担当課と地域包括支援センターの職員が1年毎に交替して運営推進委員に就任している。市からはコロナの抗原検査用のキットの提供を受けている。事業所内の段差解消のための補助金の交付を受けたこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・夜間や突発的な場合には含みを持たせるが、原則として行なわないこととしている。 ・身体拘束の指針に基づき対応中。 ・学習会を実施している。	身体拘束は行わないことを基本とし、毎月の職員会議や学習会の場で身体拘束をしないケアの実践について徹底している。毎月、法人全体で行うリスクマネジメント会議には管理者が出席している。また毎月の職員会議では、スピーチロックについての勉強を行っている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	・職員会議で研修機会を設け考え方を徹底している。 ・同上		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・職員会議等で研修の機会を設けている。 ・成年後見人を利用されている家族あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、入所前に説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進委員の中に利用者家族も委員として参加頂くことにしているが、なり手がなく現在検討中。 ・面会時に家族の意見や要望を聞くようにしている。	家族の面会の機会が少なくなってきたが、利用者の暮らしぶりやケアの内容などを毎月家族に報告する際、意見、要望を伺っているほか、預り金の毎月の出納状況の確認のために家族が来所する際にも、家族から意見や要望を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議には、全員参加で意見を交換している。	毎月1回午前9時に開催する職員会議には全員が出席し、忌憚のない意見や提案が述べられている。これら意見等をもとに、食事、行事、防災、ケアの方法などが見直され運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・6月と12月に人事考課を行い、職員の意識などの確認をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修には、積極的に参加している。 ・外部研修への参加は縮小。 ・介護福祉士受験のための実務者研修1名参加。		

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・全国グループホーム協会に加入。 ・今年度参加の実績なし。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前の訪問調査等を行い、本人からの話を聞くなどの対応をしている。 ・顔見知りになる機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所前に訪問調査し、家族の話を聞いている。 実際に本人、家族が施設に来所してもらい、どのような所なのか確認できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合いながら、他のサービスの利用状況を確認し、入所日を決定するなどして対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	そばに付き添いながら話を伺い、家族のようにいられるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などは、生活の様子などを伝えながら本人の思いを伝えたり、家族からの意見を伺いながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の親類に来所頂いたり、自宅周囲の方との関係を継続できるよう努めている。	以前は行きつけの理美容店に行っていた利用者がいたが今はいない。家族や親戚が食材の差入れを兼ねて来所するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。入居前に所属していた盛岡市のコーラスグループとの交流再開を希望している利用者への支援方法を検討している。	

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の居場所が決まって来たり、食事は全員で食堂で食べ、顔を合わせる機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所した方の居宅ケアマネジャーより、退所後の様子を聞いている。 ・ホームへ移転した方へは(家屋が近いので)ときどき面会している。(今年度は連絡のみ)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・個々の生活傾向に配慮し、本人の思いに沿って行っている。 ・本人の話を良く聞いたり、家族に様子を報告しアドバイスを頂いたりしている。	意思表示できる利用者は数名いるが、それ以外の利用者については日常的な会話や、顔つき、反応から思い等の把握を行い、職員会議などでどのようなケアが最善なのか話し合っている。本人の希望が必ずしも叶えられない場合には、誠意を持って耳を傾けることで不安の解消に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に伺っているが、入所後の生活の様子を見ながら、家族から再度伺うこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌に日々の様子を書きながら、状態の把握に努めている。朝・夕のミーティングにて担当者同士の申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月の職員会議に、ケアの困難な所を出しその都度話しあっている。 ・同会議にて個々の計画の評価を行っている。 ・家族からの意見も求めている。	居室担当の職員から聞き取り、その内容をケアマネジャーが取りまとめる形でモニタリングを行い、それをもとに毎月の職員会議で個々のプランの評価を行い、見直しを行っている。医療面については訪問診療時や訪問看護師から意見を聞き、プランに反映させている。本人・家族からは、ケアプランの案の説明と併せて意見を伺っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケース記録を活用したり、朝・夕の申し送りによって生活の様子を共有している。 ・毎月の会議で利用者一人一人の目標を確認しまた評価している。		

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・夏冬とも15:30～夕方入浴を行っている。 ・法人の地域貢献事業に参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・市の移動図書館を利用している。 ・家族協力で馴染みの美容院に行っている ・近隣の理容店より訪問散髪を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・訪問診療(隔週2回)等を活用している。 ・必要時は家族から通院の支援をいただくこととしている。	入居時に意向を確認し、1人の利用者を除き、訪問診療の医師をかかりつけ医に変更している。訪問診療は月2回で、それ以外にも訪問歯科もあり、口腔状態の維持に努めている。訪問看護師は週に1回の訪問があり、健康状態等に変化があれば訪問診療の医師に連絡を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護→毎週水曜日に来所。 ・入所者の状態を報告し、変化等があれば主治医に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院等があった場合は、情報提供することはもちろんのこと、入院中は訪問し様子を伺うなど、退院等についても看護師に聞き、家族とも相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・終末期のあり方については、家族の希望は聞いている。医療的な関わりが多い場合は受け入れが困難である事は説明している。	入居時には利用者・家族には看取りの対応についての説明を行っている。これまでに、5例以上の看取りを経験しているが、重度化に備えて特養への早めの申込みを家族に推奨することとしている。浴室等の関係で入浴の介助が困難な身体状況となった場合には、施設入所について説明し、家族の選択を援助している。	

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急マニュアルを作成している。 ・定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期の避難訓練を行っている。 ・地域に特養の防火協力隊があり、年1～2回に実地訓練を行っている。	毎年6月と11月の2回、夜間想定避難訓練を行ない、家族、利用者も参加している。約6分で玄関に集合している。法人グループの特養の防火協力隊の訓練に事業所の職員も参加している。ハザードマップ上は浸水想定区域には入っていない。今後、BCP(事業継続計画)の策定を検討している。	ハザードマップ上、浸水の危険性はほとんどないが、火災など万一の事態に備えて、夜間想定訓練の実施時間帯を薄暮時にするなど、より実践的な対応を前提とした訓練を実施することが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・介助や支援の場面において、利用者のプライバシーに配慮している。(トイレの扉、入浴時のタオル)	利用者の羞恥心に配慮し、入浴時には身体にタオルをかけた後、トイレのドアを開けっぱなしにしない介助を行っている。異性介助を嫌がっていた利用者には同性介助としていたが、現在は、全職員と慣れ親しんだこともあり、異性介助の問題は無くなっているものの、引き続き配慮を怠らないよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ご本人の希望を聞いて対応している。 ・介護職員のペースで話すことが無いように留意し、利用者の話をゆっくりと聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表をある程度の基準としているが、全てその限りではなく、利用者本人の意向やペースを尊重しながら行っている。体調にも配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・利用者と職員が外出し本人に衣類等を選んでもらい購入する機会を設けている。 ・入浴時に着替えの衣類を選んでもらったりしている。洗髪後は、頭髪の乾燥後鏡の前で整えてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・献立作成時には、希望を聞いている。 ・社会的距離を保ち、職員も一緒に食べている。 ・年に数回焼き物パーティーを行っている 	献立は食事の2時間前に利用者の希望を聞きながら作っている。家族や職員などからの差入れを多く利用して、郷土色のある食事を提供している。職員と利用者が一緒になって梅干しや干し柿づくりを行っている。野菜の皮むきなどの下ごしらえや、食器拭きなども利用者が共同で行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・献立は職員が立てるが、特養の管理栄養士に栄養面・バランス等の確認をもらっている。 ・食事摂取量を記録している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、歯磨きや舌の洗浄、入れ歯も本人に洗ってもらっている。 ・夜間は入れ歯を保管している。入れ歯は週2回洗浄剤で消毒している。 ・訪問歯科、歯科衛生士の指導あり。 		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前食後の排泄介助・随時の介助等を、排泄記録用紙に記録し対応している。	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導を適切に行っている。布パンツ4人、紙パンツ5人となっている。夜間は、パット交換の1人を除き7人がトイレ介助とし、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食後の排泄介助・水分補給・下剤の服薬確認等を行っている。 ・排泄の状況は適時訪問診療や訪問看護の来所時に報告している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて夕方15:30～入浴している。 ・1人週3回入れるように計画している。 ・本人の拒否があれば、次の日に声がけしている。足浴を実施することもある。 	在宅での日常生活に近い、夕方からの入浴としている。これにより洗濯物が翌日廻しになってしまう事業所側の負担感もあるが、あくまで利用者の立場を考慮している。1週間に3回の入浴を基本としているが、皮膚疾患のある利用者は毎日の入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬期間は、「足が冷たくて眠れない。」と訴える入所者には、湯たんぽやホットタオルで足を温め対応している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内服はほとんどの方が服薬している。 ・内服の変更時は、薬の効能や用法を申し送り、服薬確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・モップ掛けや、洗濯物・タオルたたみ、食器拭きなどを、お願いしている。 ・畑の耕作や草取りを職員と一緒にいることがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・施設では、母体の特養ホームからリフト車や軽自動車借りて、地域行事へ参加している。近所への散歩、公園へのドライブ等を行っている。	コロナ禍で外出がままならないが、事業所の周りや近所の保育園へ散歩している。また、ドライブなど外出支援に努め、新緑の頃には山菜(蕎麦)採りに出かけ、また水上温泉(夏油温泉近く)ではソフトクリームを食べてきた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金のしくみを設けて、希望や必要に応じて使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・入所者が電話を希望した際は、本人に電話番号を確認し、相手の了解を得て通話している。 ・家族からのはがきや手紙は本人に手渡し読み上げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・展示スペースを利用し、普段の様子・行事等の写真を貼付している。 ・個人の作品も展示している。 ・玄関前に季節の花を植えている。	共用の空間は、木製のテーブルを使用するなど雰囲気をややかにしているほか、天井も高く、明るく解放感のある空間となっている。展示スペースには、行事などの写真を貼り、壁には正月飾りなど季節感のある飾り付けをしている。居室を含め床暖房を設置し、快適に過ごせている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・こたつ、ソファの利用や食堂テーブルの定位置で過ごしている。 ・好天時はベランダ席で日光浴や食事をするところがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やぬいぐるみなどを置いている。	居室には、ベッドと床頭台が設置されている。家族の写真、誕生日・お祝いカードのほか、仏壇や位牌などを置いたり、有名歌手のポスターを貼っている利用者もいる。床暖房が入っており、快適に過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・着替えや歯磨きなど自分で行っている。 ・手すりの設置により、歩行支援をしている。また、浴室にも手すりを増設置し安心の基入浴出来るようにしている。		